広報みとよ
2014
1月号
平成26年1月1日発行

蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 13

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

懐かしの1枚

太縄の生産

手でなった縄は「おない」と言い、岡本地区を中心に豊中町内各地で作られ、岡本の集荷場に集められた。集められた縄は、用途にあわせた漁業用のロープ（太縄）に仕上げられ、昭和30年代には、県内だけでなく、愛媛や岡山・広島などにも出荷された。

「想い出の一ページ」

「昭和23年に三豊農業学校を卒業し、18歳頃から家の農業を手伝い、縄をのう（なう）ていたことを思い出します」と写真を見て話してくれる織田邦忠さん（82）。

「農家は農閑期を利用して稲藁を人差し指くらいの縄にのうて、写真のように板に巻きつけ、業者に売っていました。私は、22歳で結婚しましたが、当時は新婚旅行というものはなく、結婚した次の日から嫁さんを交え、家族で縄をのうていたことが懐かしいです。太すぎても細すぎても買ってくれんので、なかなかめんどかったですね。終戦後は物がなく、食べるものもなかったので、非農家のだんなしの奥さんが着物などをよく持ってきて、米と交換してあげていましたね。米を作る肥料もなかったので、農家の人は、米を背中に担ぎ、汽車で新居浜へ向かい、肥料工場の社宅へ行っていました。肥料工場の社員は当時給料として肥料をもらっていたので、それと物々交換していたわけです。おまわりさんに見つかると取り上げられるので、見つからんように走って汽車に飛び乗っていましたよ（笑）。今の時代はそのときのことを忘れ、米を作るのを規制したり、TPP参加などと言い、農家はいつの時代も政治の犠牲だと思います。自国が食べる分は自国で作るということを徹底し、農家をもっと大事にしておかないと。農業は自然が相手ですから、急に必要な分をとるということは難しいですからね。必ずつけがもうてくる、と思います。食料の大切さを、若い人にもう一度考えてもらいたいですね」

編集後記

明けましておめでとうございます。いつも突然の取材にも快く応じ協力してくださる市民の皆さん、読者の皆さんのおかげで、広報は発行できています。今年も引き続き「市民力」をテーマに、地域の元気のために、力を貸してくださっている人や三豊市の今を取材し、より多くの皆さんに「魅力溢れる三豊市」を知っていただけるよう努力したいと思います。市内各所でたくさんの笑顔にお会いできることを、楽しみにしています。

発行・編集　三豊市役所総務部秘書課
香川県三豊市高瀬町下勝間2373番地1　☎0875（73）3001